慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	労働問題に関する米国の新刊書
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.10 (1920. 10) ,p.1496(158)- 1498(160)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19201001-0158

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

新刊紹介

勞働問題に關する米國の新刊書

1、米國産業の勞働條件

W. J. Lauck and E. Sydenstricker-Conditions of Labor in American Industries. pp. xi. 403.

2、米國に於ける勞働組織研究序論

G. G. Groat-Introduction to the Study of Organized Labor in America, pp. xv. 494.

歐洲戰爭、戰時並に戰後に現はれたる經濟上の變動、産業組織に對する勞働者の要求、勞働組合の改造論は諸國に於ける勞働問題研究者に非常の刺戟を與へたものと見へ、此問題に關する新刊書は諸國を通じて少なしとしない。本書亦其一つであつて、米國勞働者の賃銀、勞働時間、衛生的施設、就業並に失業の狀況、勞働者の家族等に就き、千九百年から千九百十四、五年に至る現狀を基礎として、詳細の研究を試みて居る。米國の勞働者が組織の點に於て、英國の勞働者よりも遙に劣つて居ることは、一般に傳唱される所であるが、本書に據れば、組合所屬勞働者の勞働者總數に對する割合は千九百年に於ては、四分であり、千九百十年には七分に過ぎなかつた。是れは米國勞働界の一弱點である。更に驚く可きは、各種の事業を通じて、年齢十歳以上十三歳以下の男女の使役される者が存外多數に上つて居る事である。斯く家庭に從屬する婦人小兒の勞働することは、自然家長たる勞働者の所得を補助するので、勞働者は一方から云ふと、一家の生活を獨力で維持するだけの所得を自分一個の賃銀で得られない事實を生ずる。

例へば今日米國で、勞働者が相當の狀態で、生活して行くに必要な所得を年額六百弗とする。家長たる勞働者の獨力で、此程度又は此以上の所得の收められる職業もあるが、同時に六百弗以下の賃銀しか、勞働者に拂へない職業も澤山ある。而して斯る職業に勞働者が安んじて從事して居るのは、一方から云へば、家庭の從屬者の賃銀で所得を補助されるからであつて、此補助は要するに勞働者の賃銀を低廉な程度に置く結果と爲る。

此外人種別に依る勞働條件の相違に關する研究は移住民問題解決の關鍵と爲るであらう、マッサチユーセツ、オレゴン、ミンネソタ、ウータ、華聖頓諸州に於ける最低賃銀法の實際に運用されつゝある狀況の説明も、吾人に相當の知識を與へる。

米國勞働組合の全體に亙つて説明した書物は從來餘り多く見出されなかつた。先づジョンス、ホプキンス大學から出版された五六の小冊子殊に其一冊であるウエイフォース氏の「勞働の組織力」の如き、コムモンス氏の米國勞働史の如き、ホランダー氏の編纂した米國勞働組合研究の如き、研究者に相當の便利を與へたものであつたが、尙は今少し全體に亙つた包括的著作の必要であることは、一般に望まれて居つた。グロート氏の新著は此點に於て、世人の渴を醫するものと云へやう。米國勞働組合の起源、組織、活動、政治との關係に就て、一般的に説明し、最後に勞働組合主義に一大變革の起らんとする問題を提出し來つた。第五編は即ち是れであつて、過渡的時代と題し、何故米國の勞働組合がインダストリヤル、ユニオニズムと爲り、而して此ユニオニズムが革命的色彩を帶ぶるやうに爲つたが、而して斯く主義の一變した勞働運動

は何を要求して居るかと云ふ問題に就て、解釋を下して居る。本書の大部分は平凡の記述であつて單に米國勞働組合の狀況を紹介したに止まるが、第五編に至つては、讀者に多大の感興を與へなければ已まないであらう。日本の讀者に紹介したい個所もあるが、現行法令に抵觸する恐れもあるので、之を敢てしない、研究者が原書に就て、一讀されることを希望する。

（堀江歸一）

Edward Friedmann, Der Mittelalterliche Welthandel von Florenz in Seine geographischen Ausdehnung. mit 2 Tafeln.

著者は主として Pegolotti の Pratica della mercantura を根本的史料として、中世に於けるフロレンス商業の地理的範圍を考察せしものにして、彼れは先づ結論に於てフロレンスの大銀行家バルヂの代理者として千三百十五年より千三百三十六年の間にアントワープ、英國、サイプルス、小亞細亞の諸地に旅行せし Pegolotti の紀行と、十五世紀に於ける Giovanni di Antonio da Uzzano の旅行記とを比較して、十四、十五兩世紀の間にフロレンス其者の商業的發達上相違の存せることを明かにせり、即ち同市の販路は政治上の關係よりして漸次年代を經過すると共に亞細亞方面にて縮少せらるゝと共に自餘の方面に於て擴張せられし傾向を現せり、次ぎに著者はフロレンスの對外的商業が果して何れの地點迄及びしやを考證して麻洛哥、支那、蘇格蘭、亞弗利加の內地方面等を指摘せり、斯くの如きは中世の企業が單なる Kundenproduktion の範圍を脫して近世的なる傾向を有せしことを明かにする有力なる證左となす、要するに本著は地理的意義を重要視せしに不拘、歷史的方面より見るも中世紀末に於けるフロレンスの企業を考察するものにとりて最も有力なる材料を提供するものにして、若、著者が更にフロレンス商業の地理的分布狀態と共に更に當時に於ける之が商業の組織又たは經營狀態に就きて併せ記述せられなば、經濟學者殊に經濟史家にとりて更に大なる滿足を求むることを得可し。（阿部秀助）

米田庄太郎著　「經濟心理の研究」

四六版六二六頁、定價金參圓八十錢　京都弘文堂發行

わが社會學界の寂寞を破る者は米田博士をおいて他に求めることは出來ない、本書は博士がすでに公にせる經濟心理に關する研究の諸論文の內一般的問題に關するものを蒐集したものである。即ち第一章「タールドの經濟心理學」第二章「經濟發達階段心理化の研究」第三章「原始經濟生活と交換有無問題」の三論文よりなる。更に附錄として「タールドとベルグソン」なる一文を附して居る。

以上の諸論文を通觀するも博士の研究は一に社會心理的基礎に立脚せるものである。例へば博士がタールドの說を批評せる言に「經濟學の出發點も到着點も人間であると云ふことは、茲に改めて述ぶる必要もないほど、今日の經濟學者の一般に承認して居る思想である。併し此思想の眞義は只之を箇人心理學的に考察する以上は未だ充分に理解し得られないものである。而してタールド先生の如く、之を社會心理學的に考察するに於て、始めて其の眞義が充分に又豐富に理解されるのである。」（本書一一六頁）とあるが如く、博士自身も亦かなり忠實なるタールドの學徒である。勿論本書に於いて博士自身の所論と見るべきものは極めて少ない。僅かに第二章第六節と第三章第三節の兩節のみであ